

3. 活動内容

(1) 地域とつながる **第2回防災・減災キャンプ** (多摩市総合防災訓練を同日開催)

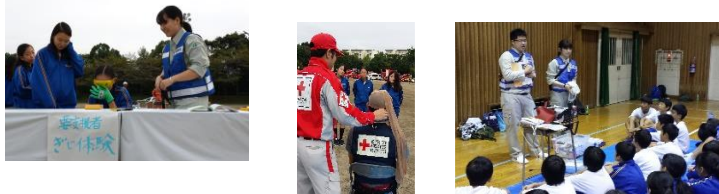
— 自助・共助の実践力をつけよう

日常の教育活動を通じて課題解決力を育て、持続発展可能な社会をつくる担い手を育てる視点と理念から、鶴牧中学校はE S Dの柱を「防災・減災」に昨年度から置いている。自助・共助の技能・知識を身に付けながら、思考・判断・行動、そして表現の力を育てていきたいと考えている。また、防災・減災教育を通し、未来に渡る地域づくりに貢献できる生徒の育成を目指している。以下は10月1日(土)・2日(日)に「自分の命を守った上で人とつながるまちづくり」をテーマに実施した本校の防災・減災キャンプ及び多摩市総合防災訓練の概要である。

目的＝地域・関係機関との連携を図り、避難所を想定した実践的な活動を通し、自助・共助の知識や技能を習得する。

- 講座1 被災地体験—命を守る(多摩消防署)
- 講座2 認知症サポーター養成(あいグループホーム天の川)
- 命の授業(各学級担任)
- 昼食＝自助パックの中身で命をつなぐ想定
- 参加型体験訓練

今年の防災・減災キャンプは、多摩市総合防災訓練と同日に実施。多摩消防署の方には、東日本大震災被災地での救護活動の経験も含め、命を守る防災講座を、グループホーム天の川の方には被災時弱者支援のための認知症サポート講座をお願いしました。自助パックの缶詰をおかずにした昼食後は、総合防災訓練。33のテントと多くの車両が並んだ中で様々な自助に関する体験ができました。夕方から翌朝にかけては、体育館・クラブハウスやホールでの宿泊訓練。被災地の写真パネルに見入る生徒もいました。また、朝夕の食事の配給訓練(写真右端) トイレ設営やA E D、非常通信などの訓練講座も体育館で行われました

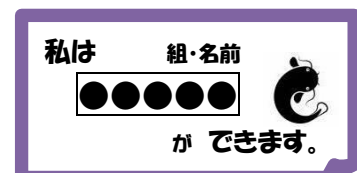


■ A E D 訓練・H U G 及び避難所宿泊訓練



左：地域とともに避難所での配給訓練
右：想定避難所に展示した東日本大震災の被災地写真パネルを眺める生徒たち ↓ 「できます」カード

- 「できます」カードで、さらに実行力を育成
避難所運営訓練の体験後、生徒一人一人が避難所で実際



にできる具体的な行動を考え、「できます」カードに書き込む。
 実際の避難所で、このカードを避難者に見えるようにして
 歩き回り、避難者の要請に応じた支援を想定している。



- (2) **防災自助パック**をつくろう（通年、全学年対象・総合的な学習の時間、他）

年間を通し、学校（または自宅）で被災した際に必要な物品を各自検討させ、話し合せて準備させる指導を行う。夏季休業中に家族等とも相談し、9/1 防災の日に提出。その後、袋の中身を検討する指導を重ねながら学校で保管（各学級男女別にフレコン 26 袋に入れて保管）。また、今年度は全学年とも自助パック内の検討を進め、夏季だけでなく 2 学期には冬季に向けての備蓄品を考える機会を設定して自助パック内の入れ替えを行い、より実効性を増した内容となった。

- (3) **防災巻**（大規模災害時の 3 日間の各自の時系列行動想定レポート）の指導を進めた。

平成 28 年 7 月 13 日（水）に、朝日新聞東京本社 CSR 推進部 企画委員の安田景輔氏、NIE 学会理事の有馬進一氏による地震の科学講座、防災巻講座を受けた。体育館内で講座を受けた 1、2 年生は、72 時間の具体的な想定ができたことは、その後の防災自助パックの検討や家族との話し合い等に役立った様子であった。



- (4) **救急救命講習** 自助・公助のための技能を身につけよう。

1 年……AED・心肺蘇生講習・応急手当の技能（10 月多摩消防署）

3 年……AED・心肺蘇生講習（3 月・多摩消防署）

サバイバル自助・共助講座（2 月・NPO 法人）

- (5) **身近な素材の防災活用術**—自分が生き延びなければ他者は助けられない

脱臭・浄水・携帯用カイロ作り（活性炭）や簡易コンロ、空き缶、ポリ袋、アルミホイル、ラップ、ハンカチ、ペットボトル、牛乳パック等の身近な素材の活用法を考えて防災活用品を作成する機会を昨年度に引き続きもった。ただし、昨年度から取り組み、今年度の予算計画に組み入れた活性炭を使用しての浄水確保については、活動の中で被災時の飲料水確保レベルの浄化が困難であることから、飲料水確保から生活用水（食器の洗浄、トイレ用など）の確保に切り替え活動を進めた。その中で、被災時を現実的に想定した場合は、水（飲料用・生活用）の確保とともに、排泄物の処理に重点があるということを生徒と教職員で考えながら探求してきた。3 月のサバイバル自助・共助講座では、水の確保とともにトイレと衛生・健康の維持確保を考えさせながら実践的な講座を進め、より実効性のある活動を展開できた。

また、9 月以降、学校施設内にある雨どいを利用した雨水貯水タンクを設置（写真）し、雨水の被災時利用の検証を行ったが、活性炭を利用した飲料水確保は衛生面から難しく、非常時の手洗いや排泄物処理などへの利用とした。雨水貯水タンクの設置は、被災時の水の確保の困難さと重要性について、生徒・教職員・地域住民の気づきにつながった。



- (6) **多摩市・第8回ボランティアまつり**で地域に発信

2017年1月28日（土）多摩市関戸公民館ヴァータホールにて、特別企画「私のボランティア体験」と題し、8名の中学生がパネルディスカッションを行った。他校3校の2年生6名に交じり、本校2名は1年生の東北被災地支援に携わった経験をもつ2人。中学入学以来、防災・減災をESDの柱としている本校で学び、今年度の防災・減災キャンプ（多摩市総合防災訓練）では、地域市民を支えるボランティアとして活躍を遂げた生徒でもある。本校が目指す教育目標の一つ「自他敬愛の心をもち奉仕する生徒」にふさわしい姿である。



パネルディスカッション



発信生徒2名の東北被災地支援

(7) 地域活動と防災連携する生徒・教職員 ※主な参加・連携地域活動

4/24(日) 多摩市消防少年団入団進級式(多摩消防署)

7/23(土) 第34回多摩ニュータウン野外コンサート(吹奏楽)

青少協防災訓練(青少協鶴牧・大松台地区委員会)

7/18(祝) 社会を明るくする運動

8/6(土)・7(日) 落合自治連合会夏祭り

8/20(土) 第3回唐木田・中沢・山王下等地区 地域福祉推進委員会

(多摩市社会福祉協議会 国士舘大学防災・救急救助総合研究所)

9/1(木) 学区内の医療法人財団天翁会あいグループホーム天の川 高齢者との交流会

12/3(土) 唐木田コミュニティセンター第6回地域連絡会

1/28(土) 第8回ボランティアまつり(多摩市社会福祉協議会)



(1)～(7)の【成果】

- 1、自助・共助の意識と知識・対応技能の向上 【生徒・保護者・教職員の変容】
- 2、未来を生きる地域住民の一人として、生徒が居住地域と協働的・主体的に関わることにより、未来を創り出す意欲と課題解決力を育てられた。【生徒の変容】
- 3、地域の防災ネットワークにつながる主体的な意識が生まれた。【地域の変容】

参考 《平成27年度・28年度の本校防災・減災教育推進のための主な連携・協力機関》
多摩消防署、多摩消防少年団、多摩中央警察署、唐木田コミュニティセンター運営協議会、
唐木田児童館、NPO法人コドモ・ワカモノまちing、医療法人財団天翁会あいグループホーム
天の川、朝日新聞東京本社CSR推進部、NIE学会、NTT東日本武蔵野支店、東京ガス(株)
多摩支店、日本赤十字東京都支部、多摩市赤十字奉仕団、(株)NTTドコモ、一本杉炭やき倶楽
部事務局、社会福祉法人・多摩市社会福祉協議会 多摩ボランティア・市民活動支援センタ
ー、社会福祉法人・多摩市社会福祉協議会まちづくり推進係、青少協鶴牧・大松台地区委員
会、唐木田コミュニティーセンター運営協議会、東京都教育庁 地域教育支援部生涯学習課、
日本赤十字・総務局組織推進部青少年・ボランティア課、(株)イトーヨーカドー多摩センタ
ー店、大妻女子大学・人間関係学部人間福祉学科、楽農倶楽部 学区内27自治会・理事会・
管理組合 多摩市(総務部防災安全課、教育振興課、学校支援課、教育指導課 他)

(1) 国際理解 留学生による授業

モンゴル、イラン、ウズベキスタン、ネパールの留学生による自国の文化紹介の授業を、毎年1・2年で実施している。映像や実物に触れ、留学生に直接質問することでより深い国際理解につながっている。また、留学生の生き方を学び、将来の生き方を考えるよい機会となった。

(2) 環境 ゴーヤ栽培

技術科を中心として土壌作り、ゴーヤ栽培を地域の人材を活用して行い、地域環境と関連付けて学習を進めた。栽培されたゴーヤの苗は地域のコミュニティセンター等に配布した。



(3) 伝統文化 世界遺産 食育

・修学旅行、都内巡り、このまさわ校外学習

1年生はこのまさわ校外学習に向けて食の大切さについての学びを深め、2年生は都内巡りで江戸の今と昔の文化について、各自テーマを決めて課題解決学習を行った。3年生は京都・奈良への修学旅行で、世界遺産・日本の伝統文化についての理解を深め体験学習を行った。



・琴体験授業

音楽の時間に1年生が、地域の人材を活用して琴の体験授業を行った。

・貝あわせ・百人一首大会

貝合わせ 貝あわせは平安時代から伝わる貴族の遊びで、百人一首の原型とされている日本の伝統的な遊びである。「東京貝あわせ研究会」の方に来ていただき、畳を6畳ずつ2カ所に敷き、その上に赤い毛氈もうせんを敷いて1クラスずつ行った。(1年生)

百人一首大会 1年生は散らし取りで行い、2年生では「ニュー多摩かるた会」の方に来ていただき、競技かるたについての講義を聞き、模範演技を披露してもらったあと源平合戦を行った。



・武道

体育の授業で、柔道を通して日本の伝統的礼儀作法を学んだ。

(4) 平和・人権

道徳、総合的な学習の時間、社会、国語の時間を中心に世界平和と人権について学び、理解を深めた。特に杉原千畝、ハンセン病などについて学びを深めた。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）